

＜卓球バレールールブック(2022年改訂版)＞ 「主な改正点」

＜改正前＞	＜改正後＞
打球は片手でラケットを持って行うことを原則とする。	＜両手持ち・両手打ち可能＞ 片手又は両手で持つことができる。 ラケットの範囲は、いずれも手首の突起した骨の手前（骨は含まない）までとする。 「両手打ち」の場合は、「片手で持って」打球することができる。但し、左右の持ち替えはできない。
審判員体制について	＜「線審」の導入＝追加＞ エアボールの判別は、副審及び線審の判断も取り入れ、主審が決定する。 線審の採用は、大会主催者が決定するものとする。
競技者の構成について	＜追加＞ 監督とゲームキャプテンは兼任することが出来る。
反則（サポート）について	＜反則（サポート）＝追加＞ 相手コートに達した（触れた）ボールがスピン等により戻りサポートに触れたとき。

＜片手持ち・両手持ち（打球）について＞

プレー開始時	ラリー中	
片手持ち	パターン①	左右持ち替えて打つ⇒×
	パターン②	右手又は左手で打った後、両手持ちに替えて打つ⇒○ その後、 { (1) プレー開始時に持っていた手に持ち替えて打つ⇒○ (2) プレー開始時に持っていた手とは異なる手に持ち替えて打つ⇒×
両手持ち	パターン①	左右どちらかの手を離す（片手で打つ）⇒○ その後、反対の手に持ち替える（片手で打つ）⇒×
	パターン②	左の手を離す（右の手で打つ）⇒○ その後、両手持ちに戻す（両手で打つ）⇒○ さらに、 { (1) 再度、左の手を離す（右の手で打つ）⇒○ (2) 今度は、右の手を離す（左の手で打つ）⇒×

＜ラリー中 打球する手＞		判断
1	右手のみ	○
2	左手のみ	○
3	両手のみ	○
4	右手 ⇄ 両手	○
5	左手 ⇄ 両手	○
6	右手 ⇄ 左手	×
7	右(左)手⇒ 両手⇒ 左(右)手	×

※いずれも、打球時の反則。
持ち替えた時点（打球しなければ）では、反則にならない

※打球しなければ両手、左右の手で持ってもOK。